

# 伸・魅力通信

## 「根っこ」「土台」「出口の姿」を確認した幼小中一貫教育研修会(その6)

パネルディスカッションの中で、先生方からいただいた質問・疑問を幼児教育アドバイザーの深田勝先生と、パネリストの若葉幼稚園教諭鈴木智代先生に答えていただきました。

### Q7 先生たちの手立てを教えてください。

A まずは、子供たちが何に興味をもち、どのようなことをしたいと思っているのか、よく観察することから始めています。そして、子供の興味・関心を手掛かりに、学びへつなげていくための手立てとして環境構成と援助を行います。環境を用意する際は、「実現したいことがかなう」「やってみたくなる」「選択や工夫できる余地がある」「自由度がある」ものが用意できるように意識しています。



### Q8 保育から小学校につなげる際、良さがなくならないためにはどうすればよいですか？

A 幼小の教員間で、子供1人1人を理解していくことが大切だと思います。年度末(2月)と年度初め(5月)に、「保幼小連絡会」が行われるので、年度末でも次年度1年生を担当する先生方と情報が共有できると良いと思います。5月の連絡会には、可能であれば、前年度年長を担当した職員が参加できると良いと思います。

## Q9 小1問題を防ぐための幼小連携について教えてください。

つまずきをなくし、スロープのように幼稚園から小学校へつなげていくことが必要だと思います。そのためには、「自分の思いをもっている子」を育てることが大切だと感じています。「自分の思いをもっている子」とは、「自分は自分でいいと思える」「自分の考えを言える」「自分の判断で行動できる」子だと思います。「自分の思いをもつ」ためには、その根っこに絶対的安心感と、思い切り出した自分が認められる経験が必要だと考えています。つまり、「安全基地」と「存在承認」が大切だと思います。このような、幼児期に育てたいことを私たち教師1人1人が共通理解して保育し、育った子供の姿を小学校に確実に引き継いでいくことができれば、小1問題を防ぐことができるのではないのでしょうか。

## Q10 幼稚園での遊びから小学校の授業へとつなげて、子供たちの主体性を高めていくためにはどうすれば良いと思いますか？

幼稚園では、小学校の授業の根っこを育てていると思います。子供の「知りたい」「やってみたい」という思いをしっかりと受け止めて「もっと知りたい」「やってみたい」という思いが育つようにしています。この思いが育つと、自ら考えて行動する子になると思います。これが、小学校の主体的な学びや授業につながると思います。小学校でも自ら考えて行動する機会がたくさんあると、子供たちの主体性を高めることができます。

